

「フェーズフリー」という新しい概念

フォーラム委員会

第 189 回 aaca フォーラムは 3 月 29 日建築会館で、防災に関わる新しい概念「PhaseFree」(フェーズフリー)について、スペラディウス株式会社代表取締役・佐藤唯行氏にお話をいただいた。

フェーズフリーとは、これまで人類が解決できなかった繰り返し発生する災害に対して、災害時の特別な防災という考え方ではなく、平常時や災害時などの社会の状況に関わらず、適切な生活の質を確保しようという新しい概念である。

佐藤氏は学生時代に大学で災害軽減(防災)工学を研究する中で奥尻島地震(1993 年)、阪神・淡路大震災(1995 年)に直面し現地に入ったが、自分の無力さと同時に防災を行政やボランティア活動によって実現しようとする現状への限界も痛感し、「防災はビジネスによって実現されるべきなのは」との思いが芽生えたという。そして平常時と災害時という二つのフェーズ(状態=垣根)の区切りをやめ、フェーズフリーという概念で普段の生活がそのまま防災になるようなモノやサービスが作れないかと考えるようになった。つまり防災時には普段とは違う方法で役立ったり、生活や命を守れること。それがフェーズフリーという価値である。

フェーズフリーがいわゆる防災と異なる点は、あらゆるモノやサービスに関わる企業や個人が全員主役であることであり、これまで防災について考える役目は防災の専門家が多くの担ってきたが、フェーズフリーではモノやサービスを提案・提供する全ての人がそれぞれの専門性の中でフェーズフリーという付加価値を加え、新たにデザインし改善して提供することで、災害時でも安心して豊かな暮らしができる社会へ近づくと述べる。

フェーズフリーはどのような状況においても利用できること。日常から使える日常の感性に合っていること。使い方、使用限界、利用限界がわかりやすいこと。気づき、意識し、災害に対するイメージを生むこと。参加でき広めたりできること。と定義している。そしてカテゴリーとしてはモノを軸にした〈プロダクト分野〉と、コトを軸にした〈サービス分野〉に分類している。

佐藤氏の説明によると、例えば、

A. 防災及び特定の職業などで日常的に利用しているものでは
〈プロダクト分野〉日常時から工事や作業現場などで利用され防災グッズとしても活用されるヘルメット

〈サービス分野〉常に守るという役目を担っているガードマン

B. 利用方法を提案することでフェーズフリーの価値を提供する点では

〈プロダクト分野〉ペットボトルウォーター

〈サービス分野〉日常時から災害への知識・理解を深める教育を取り入れ対応力を向上

C. 日常時も非常時も同じフェーズフリーの価値を提供し続けるという面では

〈プロダクト分野〉水に強いペン

〈サービス分野〉日常の利便性に加え非常時にも物資を確保できる宅配サービス

D. 日常時とは別に災害時に役立つフェーズフリーの価値を発揮する場面

〈プロダクト分野〉日常時は省エネでエコ、非常時には生活用の電源に利用できる PHV 車(プラグインハイブリッド車)

〈サービス分野〉日常時には健康管理、非常時にはペットの避難先として利用できる動物病院

以上を見てくるとフェーズフリーという言葉は耳慣れないが、内容は日常の中で意識し見直すことで取り組みそうである。日常生活の中でもタンスなどを固定したり、階段の上の飾り棚に重いものを置かないなどの配慮はしている。上記に水に強いペンとあるが、超撥水性の風呂敷は水を運ぶのに使えそうである。そのように考えると学生に課題として提出できるなと思った。そのことで若い人も防災について身近なものとして捉えるようになるだろう。また日常の食品も特別に災害用というのではなく保存可能なものを常備すればよさそう。保存を考慮した日本食を見直すのもよいかもしれない。日常の中での防災について考えるよい機会となった。



フォーラムのようす

(撮影: 飯田郷介)